

J-STARS-L (longitudinal study)

1. 研究責任者および研究組織

J-STARS の研究責任者は広島大学大学院脳神経内科教授松本昌泰である。この J-STARS に予備調査委員会を設置し、本研究を計画、実施する。

委員長

島根大学医学部神経・血液・膠原病内科教授 小林祥泰
(島根医科大学第 3 内科教授)

委員

国立循環器病センター脳血管内科部長 峰松一夫
慶応大学医学部神経内科講師 棚橋紀夫
九州大学大院医学研究院病態機能内科学助教授 井林雪郎
国立嬉野病院神経内科医長 入江克実
(国立療養所福岡東病院脳血管内科医長)
広島大学病院救急部助手 野村栄一
(あかね会土谷総合病院神経内科医長)

注：括弧内の所属および職名は委員会を組織した時点のもの

2. 調査のデザイン

前向きな症例登録により追跡調査を行う縦断的研究

3. 方法

日本脳卒中協会の脳卒中データバンク部門と協力し、脳卒中データバンクのデータベースソフトにオプションの入力項目を設定する。登録症例はデータベースソフトの必須項目の入力に加え、オプション項目の入力を行う(記入用ソフト J-STARS Statin Trial System を作成)。選択基準に従って前向きに症例を登録した後、定められた時期に 2 回の追跡調査を行い、その結果を入力する。

第1回追跡調査（中間報告） 2004年10月1日

第2回追跡調査（最終報告） 2005年10月1日

なお、第1回追跡調査の結果は記入用ソフトの1回目、第2回追跡調査は2回目に記入する。（記入用ソフトの3回目、4回目欄は予備用）

4. 目標症例数

600例（各施設20-50症例の登録を目標とする）

5. J-STARS-L への症例登録期間

2003年9月1日より2005年の8月31日までの2年間

6. 参加施設

日本脳卒中協会の脳卒中データバンク部門の参加施設あるいは参加予定施設から募集する。

7. 対象

選択基準

下記の1)を満たすものを原則とするが、2)を満たすものも登録可とする。

1) J-STARS-L への症例登録期間中（2003年9月1日より2005年の8月31日までの2年間）に脳卒中データバンクに新規に登録する予定の虚血性脳血管障害例のうち

- a) 脳卒中データバンクへの登録時（入院時）に脂質に関する血液検査（総コレステロール、中性脂肪、HDL コレステロール）が施行可能である。
- b) 脳卒中の既往がある場合はその病型を明らかにできる。
- c) 高脂血症がある場合はその治療内容を明らかにできる。
- d) 登録時の身長、体重を明らかにできる。
- e) 脳卒中データバンクへの登録時から J-STARS-L 参加までに新たな非致死性血管事象が発生してない。

の項目を全て満たすもの。

2) 2003年9月1日より前に既に脳卒中データバンクに登録されている虚血性脳血管障害例のうち

a) 脳卒中データバンクへの登録時（入院時）に脂質に関する血液検査（総コレステロール，中性脂肪，HDLコレステロール）が施行されていてその結果を入力できる。

b) 脳卒中の既往がある場合はその病型を明らかにできる。

c) 高脂血症がある場合はその治療内容を明らかにできる。

d) 登録時の身長，体重を明らかにできる。

e) 脳卒中データバンクへの登録時から J-STARS-L 参加までに新たな非致死性血管事象が発生してない。

の項目を全て満たすもの。

除外基準

患者本人あるいは家族からの文書による同意（別紙）が困難な例

8. 評価（プライマリーエンドポイント）

脳卒中台帳登録以降の新たな致死性および非致死性血管事象の発生の有無

なおここでいう血管事象とは，脳卒中，狭心症，急性心筋梗塞症，大動脈瘤，閉塞性動脈硬化症とする。また，脳梗塞再発例には臨床病型分類（NINDS 分類）を行う。死亡例に対しては，死因を明らかにする。

9. 調査・観察および検査のスケジュール

1) 脳卒中データバンクの必須項目の記入および J-STARS-L 専用のオプション項目の入力（記入用ソフト J-STARS Statin Trial System を使用）を行う。

2) 2 度の予後調査日に新たな致死性および非致死性血管事象の発生の有無を記入用ソフトに入力する。調査方法は，面接，電話，手紙のいずれの方法でもよいこととする。また，定期的に外来等で追跡

している場合、血管事象の発生した日をもって調査を中止してよい。定期的には追跡しておらず、予後調査日の調査においてに複数回の血管事象が発生していることが判明した場合はその初回の事象について記入する。1回目の予後調査日（2004年10月1日）に血管事象の発生が確認された場合もその時点で調査を終了してよい。すなわち、1回目の追跡調査欄に新たな血管事象ありと記入した例については2回目の欄は記入しなくてよい。また、多施設共同ランダム化試験である J-STARS に参加が決定した症例はその時点で追跡を終了し日付と結果を入力する。すなわち、2004年10月1日までに参加が決定した症例は記入ソフトの1回目の欄にランダム化試験への参加が決定した日付を入力し、結果を入力する。2004年の10月1日以降2005年10月1日までに参加が決定した症例は記入ソフトの2回目の欄にランダム化試験への参加が決定した日付を入力し、結果を入力する。

3) 予備調査日を経過する毎に各施設で個人情報を消去した記入用ソフトを J-STARS 事務局に送付していただく。(送付方法については後日決定する)

注：2003年9月現在提出用ソフトを作成中。

10. 解析

追跡調査により致死性および非致死性血管事象の発生、特に脳卒中の再発と脳卒中データバンク登録時の総コレステロール、中性脂肪、HDL コレステロールの値、高脂血症の既往の有無、追跡期間中のスタチン使用の有無の関係等について検討する。

目的変数を血管事象の発生、脳卒中の再発あるいは脳梗塞の再発として多変量 logistic 解析を行う。

高脂血症の有無で2群に分類し、血管事象の発生率、脳卒中の再発率あるいは脳梗塞の再発率を比較する。

高脂血症群で観察期間中のスタチンの使用の有無により2群に分類し、血管事象の発生率、脳卒中の再発率あるいは脳梗塞の再発率を比較する。

登録された全症例による解析を行うとともに、選択基準 1)を満たす症例のみによる解析も別に行う予定とする。

11. 人間を直接対象とした医学研究及び医療行為における倫理的配慮について

(1)本調査における症例登録は日本脳卒中協会の脳卒中データバンクのシステムを活用して行う。このシステムでは、患者データはコンピューターに入力するが、データの提出時は個人情報を自動的に消去したファイルを作成する提出用データ作成機能が整備されている。また、このコンピューターソフトにより個人情報を消去した患者データを収集し解析するシステムは、島根医科大学の医の倫理委員会により承認され、厚生科学研究費補助金による研究が行われた（脳卒中急性期患者データベースの構築に関する研究，主任研究者 小林祥泰）。本調査においても、患者データは提出用ソフトにより個人情報を消去し、島根医科大学のサーバに集める予定であり、個人情報は保護される。

(2)本調査は、前向き登録による追跡調査であり、治療・検査に関する介入は全くない。従って、個人情報の漏洩以外に患者が不利益を被る可能性はほとんどないと考えられる。調査の同意については、目的を文書により十分に説明し、2度の追跡調査を面談、電話、手紙等により行うことを承諾して頂いた後、同意書に署名して頂く。同意は患者の自由意志に基づき、同意後もいつでも撤回できるものとする。

(3)前述の如く、個人情報の漏洩以外に患者が不利益を被る可能性はほとんどないと考えられる。個人情報の保護についてのシステムは十分確立されているが、参加施設にはその遵守を要請する。

(4)本調査は追跡調査であり、被験者が直接的に利益を受けることはあまりないが、調査に参加することにより脳卒中の再発予防に対する意識が高まる効果は期待できるかもしれない。また、現在いくつかの大規模臨床試験により虚血性心疾患を有する患者においてはスタチンにより脳卒中が予防されることが明らかにされているが、脳卒中の二次予防に対するスタチンの有効性は十分に検証されていな

い。本調査および多施設共同ランダム化試験を行うことによりこれを明らかに出来れば医学上の貢献は大きいものと考えられる。

本研究は、広島大学の倫理委員会により 2003 年 8 月 26 日承認された。

12. 問題発生時の対応

何らかの問題発生した際には、研究対象者の人権とプライバシーの保護を最優先にして、適切に対応する。

13. 研究協力費

症例登録に対し、症例数に応じて研究協力費（あるいは研究に関する消耗品）を支給する予定とする。

14. 記入用ソフトの入手方法

記入用ソフトの J-STARS Statin Trial System は研究開始前に郵送にて各施設に配布するがインターネットによりダウンロードすることも可能とする。

ダウンロード用サイト

<http://www.sunfusion.net/jstars>

15. 知的所有権に関する事項

本試験から得られるデータおよび知見等の所有、論文および学会での開示に関する権利は研究参加者およびその所属施設に属する。

脳卒中の発症と高脂血症の関係についての調査のお願い

脳卒中は日本人の死因の第3位であり、介護を要する疾患では第1位となっております。脳卒中の中でも脳梗塞が最も多く、これからの高齢社会においてますますその数が増加することが予想されています。脳梗塞は一度発症すると何らかの後遺症を残すことが多く、予防が最も大切です。また、一度発症すると再発する確率も高いため、再発予防も大変重要です。予防については、脳梗塞の一部では血をさらさらにする薬（抗血小板薬、抗凝固薬）の効果があることが分かっていますが、最近、コレステロールを下げる薬にも予防効果があることが発表されました。しかし、コレステロールを下げたから効いたのかこの薬に別の作用があるためなのか分かっていません。日本には今まで、多くの患者様のデータを集めて解析し、どの薬が有効であるかを科学的に検討してゆくシステムが殆どありませんでした。そこで1999年から、脳卒中に関するデータを全国の病院から集めて解析していこうという試みが始まりました（脳卒中データバンク）。もちろん患者様個人が特定されるような情報は消してから集めるようになっており、プライバシーは完全に守られています。既に8000例の症例が集まり、その成果は本（脳卒中データバンク、編者小林祥泰、中山書店）やホームページ（<http://cvddb.shimane-med.ac.jp/>）で公開されています。

今回私たちは、動脈硬化を進行させる高脂血症（コレステロール等が高い状態）が脳卒中にも関係しているかどうかを調査することに致しました。具体的には、脳梗塞等を発症された患者様のコレステロールや中性脂肪等を検査させていただいたり、あるいは既に高脂血症の治療をされている場合はそのお薬などを問い合わせさせていただきます。さらにその後、脳卒中や心臓病などの状況についてお変わり無いかどうか、外来時に、あるいは電話やお手紙等で質問させていただきます（2004年10月、2005年10月を予定）。全国的にこれらの情報を日本脳卒中協会の脳卒中データバンクを通じて収集し、解析を行う予定です。もちろんプライバシーに関する情報は病院の外には一切出ませんし、治療に関してなんら不利益はありません。この調査により得られた情報が、本人様はもとよりご家族を含む皆様の脳卒中予防のために役立つ可能性が大いにあります。是非ともご協力よろしくお願い申し上げます。

「脳血管疾患の再発に対する高脂血症治療薬のHMGCoA阻害剤の予防効果に関する研究 J-STARS」（主任研究者：広島大学大学院脳神経内科教授 松本昌泰）研究班

脳卒中の発症と高脂血症の関係についての調査の同意書

担当医 _____ 殿

私は、別紙の記載事項について十分な説明を受け、理解しましたので、この調査研究に協力することに同意します。

説明日：平成 年 月 日

氏名（本人）

氏名（家族）

（ただし本人が不可能なときのみ）

説明者署名 _____

J-STARS Statim Trial 2


Graphic
©Impress


脳動脈硬直DB v2.0


制作
厚生労働科学研究費補助金事業
脳血管疾患の再発に対する高脂血症治療薬のHMGCoA阻害剤の予防効果に関する研究


主任研究者 広島大学大学院脳神経内科学教授 松本昌泰
 予備調査責任者 鳥根大学医学部神経・血液・膠原病内科 小林祥泰


Programed by Sunfusion Systems


 初期設定


 患者基本情報入力


 既往歴入力


 血液検査入力

 頸動脈エコー検査入力

 追跡調査入力

 追跡データ未入力症例

 脳卒中データ取り込み

 オプションメニュー

QUIT



ご使用の脳卒中入院台帳のバージョンが3.0以下の方は、必ず3.5にしてください。
Ver.3.5は脳卒中データベースのホームページより、ダウンロードできます。

URL: <http://cvddb.med.shimane-u.ac.jp/>

(注意) 脳卒中入院台帳 Ver.3.5のダウンロードメニューからの旧データベース取得は詳細は、Ver.3.0以降のファイルが対応となっております。
それ以外 Ver.2.9以下の方は、ファイルメーカーのレコード取り込み機能より、照合名順にして Ver.3.0に取得してください。

脳卒中入院台帳のデータ利用について

■J-START予備調査DBでは、データ登録を簡易化するため、脳卒中入院台帳のデータを利用することができます。
データ取り込み又は、リンクアップするためのリンクの設定を行ってください。

■データ利用の方法は以下の通りです。

- 1.データ取り込み 脳卒中入院台帳のデータをまとめて取り込みます。
- 2.リンクアップ リンクアップ設定を行うことで、共通項目をリンクアップします。

・患者IDを入力することで、脳卒中入院台帳の患者名等の基本情報を自動入力します。
・患者IDと脳卒中発症日を入力することで、その他の共通項目を自動入力します。

リンクについて

脳卒中入院台帳の使用環境により、リンクに限り一部制限があります。
左のボタンより、ご確認ください。

リンクアップ設定
データ取り込み

リンクアップのご確認及び設定を行います。

J-STARS 予備調査DB

島根医科大学第三内科

新規 校系 一覧 削除

患者一覧

患者氏名	性別	年齢	脳卒中発症分類
厚生太郎	男	70	アテローム血栓性梗塞
厚生裕子	女	62	<心臓下出血
厚生次郎	男	67	脳出血(高血圧性)
厚生末郎	0	0	脳症状進行性
厚生次郎	0	0	突発完成
	0	0	突発完成
	0	0	脳症状進行性
	0	0	突発完成
	0	0	突発完成
	0	0	突発完成

患者基本情報

更新

基本情報
 既往歴
 血液検査
 エコー検査
 脳精調査

患者ID: 0000001 (名)
 患者名: こうせい たろう (名)
 性別: 男

イニシャル: TK (名姓) [自動入力/変更可能]
 生年月日: 昭和38年12月6日
 年齢: 70 歳 [自動入力]

連絡先 患者名: 厚生太郎 (漢字)
 電話番号: 03-3678-7111

100-0013
 東京都千代田区霞が関1-1

来院年月日: 1999.02.02 (西暦 1999.12.25等)
 脳卒中発症日: 1999.02.01 (院内発症は発症日を入力)

退院時情報

脳卒中病型分類: アテローム血栓性梗塞
 退院年月日: 1999.02.20
 退院時血圧: 140 / 80 mmHG

退院時Rankin: 3
 痴呆の有無: なし

J-STARS 予備調査DB

島根医科大学第三内科

新規 検索 一覧 削除

患者一覧

患者氏名	性別	年齢	病歴
厚生太郎	男	70	アテローム血管性疾患
J厚生裕子	女	62	<心臓下出血
J厚生次郎	男	67	脳出血(高血圧性)
J厚生太郎	男	0	随従性進行性
厚生次郎	男	0	突発性
	男	0	突発性
	男	0	随従性進行性
	男	0	随従性進行性
	男	0	突発性
	男	0	突発性
	男	0	突発性

既往歴 更新

患者名: 0000001 こうせい たろう 男 70 歳

メニュー

1 基本情報 2 既往歴 3 血液検査 4 エコー検査 5 脳動脈調査

脳卒中既往歴: 1回 は脳卒中台帳より取込 は必須項目

脳卒中種類:

脳卒中家系歴: 脳卒中とSAHあり

飲酒歴: 大酒家で禁酒 喫煙歴: 喫煙40本/日以上

身長: cm 体重: kg BMI: [自動入力]

高脂血症既往: 高脂血症未治療

薬剤耐性ありの場合 → 薬剤種類:

スチロイドありの場合 → 薬剤名: 投与量: mg/日

備考:

抗血小板・抗凝固療法: なし

心房細動: なし

高血圧: 高血圧治療中

糖尿病: 糖尿病インスリン治療

心血管疾患: 心臓疾患

弁膜症人工弁: 弁膜症

細菌性心内膜炎: 細菌性心内膜炎

手術有無: なし

J-STARS 予備調査DB

鳥取医科大学第三内科

新規 検索 一覧 削除

患者一覧

血液検査
患者名 ID: 0000001 性別 男 年齢 70 歳
こせい たろう

メニュー
1 基本情報 2 既往歴 3 血液検査 4 エコー検査 5 遠隔調査
【入院時】 ※原則として入院時の結果を入力するが、再健行の場合は
入院中の値を入力

検査項目	検査値	検査年月日
総コレステロール	mg/dl	
中性脂肪	mg/dl	
HDLコレステロール	mg/dl	
空腹時血糖	mg/dl	
HbA1c	%	

その他異常があれば、記入してください。

【遠隔調査】

ここから入力 ↓

■ 総コレステロール		■ 中性脂肪	
検査値	検査年月日	検査値	検査年月日
1. mg/dl		1. mg/dl	
2. mg/dl		2. mg/dl	
3. mg/dl		3. mg/dl	

■ HDLコレステロール		■ 空腹時血糖	
検査値	検査年月日	検査値	検査年月日
1. mg/dl		1. mg/dl	
2. mg/dl		2. mg/dl	
3. mg/dl		3. mg/dl	

■ HbA1c

1. %	
2. %	
3. %	

※検査年月日は、総コレステロールの検査年月日
と同日付検査の結果を入力します。
検査日が異なる場合は、ご注意ください。

患者氏名	性別	年齢	臨床中疾患分類
厚生太郎	男	70	アテローム血管性疾患
厚生裕子	女	62	くも膜下出血
厚生次郎	男	67	脳出血(高血圧性)
厚生太郎	0	0	随従状進行性
厚生次郎	0	0	突発完症
	0	0	突発完症
	0	0	随従状進行性
	0	0	随従状進行性
	0	0	突発完症
	0	0	突発完症

J-STARS 予備調査DB

島根医科大学第三内科

患者一覧

患者氏名	性別	年齢	診断中病型分類
厚生太郎	男	70	アテローム血栓性梗塞
J厚生裕子	女	62	くも膜下出血
J厚生次郎	男	67	脳出血(高血圧性)
J厚生太郎		0	随機状進行性
厚生次郎		0	完全完結
		0	完全完結
		0	随機状進行性
		0	随機状進行性
		0	完全完結
		0	完全完結
		0	完全完結

頸動脈エコー検査

患者名: ID: 0000001 性別: 男 年齢: 70 歳

【入院時】

検査年月日:

※左右の総頸動脈遠位側のmaxIMT(測定された総頸動脈遠位側でプラークを含む一番厚い部位)を小数点以下一桁まで入力 (例) 2.1 mm

総頸動脈遠位側maxIMT	左: mm	右: mm
頸部内頸動脈狭窄・閉塞		

※有意な狭窄(60%以上)が認めれば、そのエコー上の狭窄率、あるいは完全閉塞の有無を入力

狭窄率	左: %	右: %

【随機調査】

検査年月日	総頸動脈遠位側maxIMT	頸部内頸動脈狭窄・閉塞	狭窄率
1.	左: mm		左: %
	右: mm		右: %
2.	左: mm		左: %
	右: mm		右: %
3.	左: mm		左: %
	右: mm		右: %

J-STARS 予備調査DB

島根医科大学第三内科

新規 検索 一覧 削除

患者一覧

患者氏名	性別	年齢	臨床中病態分類
厚生太郎	男	70	アテローム血管性疾患
厚生裕子	女	62	くも膜下出血
厚生次郎	男	67	脳出血(高血圧性)
厚生太郎	男	0	脳梗状進行性
厚生次郎	男	0	突発完成
厚生太郎	男	0	突発完成
厚生次郎	男	0	突発完成
厚生太郎	男	0	突発完成
厚生次郎	男	0	突発完成
厚生太郎	男	0	突発完成
厚生次郎	男	0	突発完成

追加調査(1回目) 向登取得日 2004.3.1 調査日 2004.10.1

患者名 ID: 0000001 とうせい たろう 男 70 歳

メニュー 1 基本情報 2 既往歴 3 血液検査 4 エコー検査 5 遠隔調査

同意取得日から調査日までの日数 214 | 1回目 | 2回目 | 3回目 | 4回目

血管事象の有無 ● なし ● あり あり → 脳血管障害 ラクナ様器
→ 心血管障害

今回発症日 脳卒中発症日からの日数 0 [自動入力]

死亡 死因 入院日からの日数 0 [自動入力]

血圧 / mmHG HDSR / MMSE

痴呆発症の有無 ● なし ● あり あり → タイプ

備考

抗血小板薬使用の有無 服薬期間 ヶ月間

→ 薬剤名

抗凝固薬使用の有無 服薬期間 ヶ月間

→ 薬剤名

高脂血症治療薬使用の有無 服薬期間 ヶ月間

→ 薬剤名 → 投与量 ne/日
ne/日
ne/日

降圧薬使用の有無 服薬期間 ヶ月間 薬剤種類

→ 薬剤名 → 投与量 ne/日
ne/日
ne/日
ne/日

糖尿病治療の有無

脳卒中入院台帳データの取り込み

1. 取り込みたい脳卒中台帳データを抽出します。
2. 【脳卒中入院台帳取込】ボタンをクリックし、ご使用の脳卒中入院台帳を選択します。
3. 表示順から“照合名順”を選択し、【取り込み】ボタンをクリックします。



脳卒中入院台帳取込

※間違っで取り込んだ場合、取り込み直後にレコードメニューの“対象レコード削除...”にてデータを削除し、再度取り込みを行ってください。

初期設定画面へ戻る



メインメニュー

Ⅱ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍(平成14年度) P321 ~ P712

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	書籍頁
松本昌泰	ブレインアタック	田中耕太郎, 中川原謙二, 橋本洋一郎	NAVIGATOR 脳卒中ナビゲーター	メデイカル レビュー社	東京	2002	224-225
北川一夫, 松本昌泰, 堀 正二	虚血耐性現象	田中耕太郎, 中川原謙二, 橋本洋一郎	NAVIGATOR 脳卒中ナビゲーター	メデイカル レビュー社	東京	2002	346-347
永井洋士, 北川一夫, 松本昌泰, 堀 正二	頸動脈超音波検査	—	わかりやすい動脈硬化 — 診断と治療の手引き	ライフサイエ ンス出版	東京	2002	51-55
松下幸司, 北川一夫, 松本昌泰	脳卒中の発症機序と早期診断	—	わかりやすい動脈硬化 — 診断と治療の手引き	ライフサイエ ンス出版	東京	2002	83-91
野村栄一, 郡山達男, 松本昌泰	脳梗塞	編集顧問 松本昌泰	脳血管障害の最新医療	先端医療技 術研究所	東京	2002	96-100
北川一夫, 松本昌泰, 堀 正二	脳卒中の予防に関するEBM—心房細 動, 虚血性心疾患, 頸動脈病変—	小林祥泰	循環器New Trendsシリー ズ No. 6「脳血管障害— 急性期治療から予防まで」	メデイカル レビュー社	東京	2002	111-118
内山真一郎	脳梗塞慢性期の治療	福内靖男	脳血管障害	最新医学社	東京	2003	145-158
内山真一郎	脳血管障害	岩本安彦	糖尿病合併症	中外医学社	東京	2002	188-195
内山真一郎	慢性期治療/脳梗塞再発予防—抗血栓 療法	小林祥泰	循環器New Trendsシリー ズ—脳血管障害	メデイカル レビュー社	東京	2002	71-79
内山真一郎	脳神経内科領域	森下竜一	プロスタサイクリンの多様性 と今後の展望	メデイカル レビュー社	東京	2002	234-242
内山真一郎	脳梗塞再発予防の抗血小板・抗凝固療 法のEBMと展望	小林祥泰	脳血管障害を探る	永井書店	東京	2002	50-56

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	書籍頁
内山真一郎	脳出血	杉本恒明 他 総編集	内科学	朝倉書店	東京	2003	1982-1984
内山真一郎	くも膜下出血	杉本恒明 他 総編集	内科学	朝倉書店	東京	2003	1984-1985
内山真一郎	血管奇形・もやもや病	杉本恒明 他 総編集	内科学	朝倉書店	東京	2003	1985-1987
内山真一郎ほか	抗血小板療法－単独療法と併用療法	柳沢信夫 他編	Annual Review 神経 2002	中外医学社	東京	2002	146-157
峰松一夫	脳梗塞超急性期治療	小林祥泰	循環器New Trendsシリーズ 6. 脳血管障害－急性期 治療から予防まで－	メデイカル レビュー社	東京	2002	53-60
橋口良也, 峰松一夫	脳血管障害の症候と診断 －画像診断－	福内靖男	脳血管障害－最新医学 別冊 新しい診断と治療の ABC10－	最新医学社	東京	2003	77-85
北川一夫, 松本昌泰, 堀 正二	虚血耐性現象	小林祥泰	脳卒中ナビゲーター	メデイカル レビュー社	東京	2002	346-347
北川一夫, 松本昌泰, 堀 正二	脳卒中の予防に関するEBM－心房細 動, 虚血性心疾患, 頸動脈病変	小林祥泰	循環器New Trendsシリーズ No.6. 脳血管障害「急性 期治療から予防まで」	メデイカル レビュー社	東京	2002	111-118
北川一夫	脳血管障害のEBM:エビデンスに基づ く急性期内科治療	菊池晴彦 監修	先端医療シリーズ17 脳血管障害の最新医療	先端医療技 術研究所	東京	2002	46-52
S.Kobayashi et al	Clinical characteristics of vascular dementia	Eds:K.Miyoshi C.M.Shapiro	Contemporary Neuropsychiatry	Springer	東京	2002	138-141
小林祥泰	序文(脳卒中ナビゲーター)	小林祥泰 監修 田中耕太郎	脳卒中ナビゲーター	メデイカル レビュー社	東京	2002	7
小林祥泰	無症候性脳梗塞, 血管周囲腔拡大	小林祥泰 監修	脳卒中ナビゲーター	メデイカル レビュー社	東京	2002	164-165

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	書籍頁
小林祥泰	脳血管障害の新しい内科的治療法について	永田 泉 他編	先端医療シリーズ17 脳神経外科 脳血管障害 の最新医療	厚徳社	東京	2002	4-10
小林祥泰	脳血管性痴呆	亀山正邦 他編	今日の診断指針 第5版	医学書院	東京	2002	579-583
小林祥泰	序文	小林祥泰	脳血管障害－急性期治療 から予防まで	メデイカル レビュー社	東京	2002	2-3
小林祥泰	脳卒中急性期患者データベース	小林祥泰	脳血管障害－急性期治療 から予防まで	メデイカル レビュー社	東京	2002	160-165
小林祥泰	脳卒中データベース構築の現状と展望	小林祥泰	シミュレーション内科；脳血 管障害を探る	永井書店	大阪	2003	64-68
小林祥泰	無症候性脳血管障害への対応	福内靖男	新しい診断と治療のABC 10脳血管障害	最新医学社	大阪	2003	208-215
中村雅二	特論 血清脂質測定標準化プログラム	柳川 洋, 田中平三, 稲葉 裕, 富永祐民	疫学ハンドブック 重要疾患の疫学と予防	南江堂	東京	1998	162-165
中村雅二	CDCによる脂質測定国際標準化	上島弘嗣, 小澤利男	動脈硬化・老年病予防健 診マニュアル	メデイカル レビュー社	東京	2001	58-59
折笠秀樹	一歩進んだ医療統計学	折笠秀樹 監訳	一歩進んだ医療統計学	総合医学社	東京	2002	—
Mori E	The impact of emotion on memory: Evidence from Alzheimer's disease	Yamadori A, Kawashima R, Fuji T, Suzuki K, eds	Frontiers of Human Memory	Tohoku University Press	Sendai	2002	125-132
Mori E	Functional Brain Imaging	Erkinjuntti T, Gauthier S, eds	Vascular Cognitive impairment	Martin Dunitz Publisher	London	2002	417-432